

認証評価基準の適合状況の全学的な自己点検・評価結果（令和5年11月役員会承認）

1. 施設及び設備

評価項目 1-1 ①校地、校舎の面積

②校舎等施設の整備状況等

判断基準：教育研究活動を展開する上で必要な施設を法令に基づき整備しているか

【担当組織】 施設委員会	
自己点検・評価結果	<u>令和5年度においては自己点検・評価を実施しない。</u> 本評価項目については自己点検・評価の実施頻度を「概ね3年に1度」としており、令和3年度に「判断基準を満たしている」と評価しているため、令和5年度の自己点検・評価は行わない。
改善を要する点及び対応策	

評価項目 1-2 ①実験・実習工場、農場の整備状況

判断基準：法令が定める実習施設等が設置されているか

【担当組織】 施設委員会	
自己点検・評価結果	<u>令和5年度においては自己点検・評価を実施しない。</u> 本評価項目については自己点検・評価の実施頻度を「概ね3年に1度」としており、令和3年度に「判断基準を満たしている」と評価しているため、令和5年度の自己点検・評価は行わない。
改善を要する点及び対応策	

評価項目 1-3 ①耐震化等の安全性の確保の状況

判断基準：施設における安全性について、配慮しているか

【担当組織】 施設委員会	
自己点検・評価結果	<u>令和5年度においては自己点検・評価を実施しない。</u> 本評価項目については自己点検・評価の実施頻度を「概ね3年に1度」としており、令和3年度に「判断基準を満たしている」と評価しているため、令和5年度の自己点検・評価は行わない。
改善を要する点及び対応策	なお、令和4年度に「更なる向上が期待される」とした事項があり、対応状況は以下のとおりである。

前年度から継続中の課題及び対応状況	<p>【課題】 更なる向上が期待される点</p> <p>老朽化が進む学外施設（学生寮、教職員宿舎）について、PFI 事業の活用も含め、あり方・整備方法の検討を行っていく必要がある。</p> <p>【令和5年度対応状況】</p> <p>老朽化が進む留学生寮、職員宿舎の対応について、現在 PFI 事業の活用も含め、あり方・整備方法の検討を民間業者と行っている。</p>
【大学評価室】	
前年度から継続中の課題の対応状況に対する自己点検・評価結果	<p>【課題への評価結果】</p> <p><input type="checkbox"/> 対応済 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> その他</p> <p>老朽化が進む留学生寮、職員宿舎の対応について、現在 PFI 事業の活用も含め、あり方・整備方法の検討を民間業者と行っている。</p>

評価項目 1-4 ① ICT環境の整備・活用状況

判断基準：教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境を整備し、それが有効に活用されているか

【担当組織】 情報科学センター	
自己点検・評価結果	<p>判断基準の指標として、文部科学省が毎年実施する学術情報基盤実態調査を用い、同規模大学と比較し、大学認証評価基準を満たすか判断することとした。</p> <p>この調査（令和4年度実施）における ICT 環境と活用の8項目について総合的に判断し、教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境を整備し、それが有効に活用されていることから、判断基準を満たしている。</p>
改善を要する点及び対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<p><input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。</p>

評価項目 1-5 ①図書等の整備・活用状況

判断基準：大学組織の一部としての図書館において、教育研究上必要な資料を利用可能な状態に整備し、有効に活用されているか

【担当組織】 附属図書館	
自己点検・評価結果	附属図書館運営委員会（令和5年6月7日開催）に於いて、「開館日・開館時間」、「資料」、「利用」、「その他」について令和4年度の実績や所蔵数を確認した結果、大学組織の一部としての図書館において、教育研究上必要な資料を利用可能な状態に整備し、有効に活用されており、判断基準を満たしている。
改善を要する点及び対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 1-6 ①自主的学習環境の整備・利用状況

判断基準：自習室、グループ討議室、情報機器室、教室等の授業時間外使用等による自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか

【担当組織】 施設委員会	
自己点検・評価結果	<p>本学では、附属図書館や情報科学センター内に自習室、演習室といった自学自習スペースを整備している。</p> <p>また、令和3年度は10号館2階、令和4年度は12号館2階、13号館1階にも自習・談話スペースを新たに整備し、学生がミーティングや自習スペース等として頻繁に利用している。</p> <p>なお、令和5年度は図書館改修を予定しており、改修中の代替スペースとして、「多文化、多言語、みんなのカフェ」がコンセプトのコミュニケーション空間「Mcafé」及び自習室を大学会館2階に整備した。</p>
改善を要する点及び対応策	なし
前年度から継続中の課題及び対応状況	<p>【課題】 更なる向上が期待される点</p> <p>自主的学習環境を含む教育研究スペースについて、スペースの</p>

	<p>再配置と有効活用を図る必要がある。</p> <p>【令和5年度対応状況】</p> <p>研究室・実験室へのスペースチャージ制度が令和4年度から導入され、令和3年度末には20室以上のスペースが施設委員会へ返却された。返却されたスペースのうち、10号館2階242室を新たに自習・談話スペースとして整備したほか、「学生と教員の共同プロジェクト事業」として利用するなど、スペースの再配置と有効活用を図った。</p> <p>また、令和5年度は図書館改修を予定しており、改修中の代替スペースとして、「多文化、多言語、みんなのカフェ」がコンセプトのコミュニケーション空間「Mcafé」及び自習室を大学会館2階に整備することによりスペースの有効活用を図った。</p>
<p>【大学評価室】</p>	
<p>自己点検・評価結果</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。</p>
<p>前年度から継続中の課題の対応状況に対する自己点検・評価結果</p>	<p>【課題への評価結果】</p> <p><input type="checkbox"/> 対応済 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> その他</p> <p>研究室・実験室へのスペースチャージ制度が令和4年度から導入され、令和3年度末には20室以上のスペースが施設委員会へ返却された。返却されたスペースのうち、10号館2階242室を新たに自習・談話スペースとして整備したほか、「学生と教員の共同プロジェクト事業」として利用するなど、スペースの再配置と有効活用を図った。</p> <p>また、令和5年度は図書館改修を予定しており、図書館内に設置していた自習室及び留学生等との交流空間「Mcafé」について、改修中の代替スペースとして大学会館2階に整備するなどの対応を行った。</p> <p>今後も建物改修等を進める中で、共同利用スペースとして利用可能なスペースの調査・整備を行う。</p>

評価項目1-7 ①実験等に用いる教育研究設備の、必要性を踏まえた整備状況

判断基準：教育研究活動を展開する上で必要な設備を法令に基づき整備しているか

【担当組織】 財務委員会

自己点検・評価結果	<p>設備マスタープランに定める設備の選定基準において、更新・新規導入設備の評価を行うための評価表を定めている。評価表の評価項目として「導入理由-緊急性」及び「導入理由-必要性」が設定されており、当該項目を通じて教育研究上の必要性を評価している。</p> <p>令和5年度に更新・新規導入設備計画を更新する際も上記評価結果を勘案した上で計画策定を行っている。</p> <p>以上のことから、当該判断基準を満たしている。</p>
改善を要する点及び対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 1-8 ①実験等に用いる教育研究設備の、老朽化の度合いを踏まえた整備状況
判断基準：設備における安全性について、配慮しているか

【担当組織】 財務委員会	
自己点検・評価結果	<p>設備マスタープランに定める設備の選定基準において、更新・新規導入設備の評価を行うための評価表を定めている。評価表の評価項目として設備更新については現有設備の「耐用年数(の超過の程度)」が設定されており、当該項目を通じて現有設備の老朽化度合いを評価している。</p> <p>令和5年度に更新設備計画を更新する際も上記評価結果を勘案した上で計画策定を行っている。</p> <p>以上のことから、当該判断基準を満たしている。</p>
改善を要する点及び対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 1-9 ①実験等に用いる教育研究設備の、学生の利用頻度を踏まえた整備・利用状況

判断基準：教育設備等の授業時間外使用等による自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか

【担当組織】 財務委員会	
自己点検・評価結果	<p>設備マスタープランに定める設備の選定基準において、更新・新規導入設備の評価を行うための評価表を定めている。評価表の評価項目として「利用状況-年間の利用者数及び稼動状況」及び「導入理由-必要性（博士後期課程学生の利用ニーズ）」が設定されており、当該項目を通じて設備の利用状況进行评估している。</p> <p>令和5年度に更新設備計画を更新する際も上記評価結果を勘案した上で計画策定を行っている。</p> <p>以上のことから、当該判断基準を満たしている。</p>
改善を要する点及び対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<p><input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。</p>

2. 学生支援

評価項目 2-1 ①学生の生活、健康、就職等進路に関する相談・助言の利用状況

②卒業・修了生の進路状況

判断基準：学生の生活、健康、就職等進路に関する相談・助言体制及び各種ハラスメント等に関する相談・助言体制を整備しているか

【担当組織】 学生支援センター	
自己点検・評価結果	<p>保健管理センター運営委員会（令和5年7月10日～14日開催）において、学生の保健管理センター利用実績（ケガの応急処置、診察、健康診断結果についての相談等の日常生活支援）について確認を行い、次年度事業計画内容の充実を図っている。</p> <p>また、学生支援センターキャリア支援室会議（令和5年5月23日開催）において、前年度の卒業・修了者の進路状況及び就職支援・キャリア教育事業の実施状況について確認し、学生のキャリア相談に対する需要の増加やオンラインでの相談受付等、社会情勢の変化に対応した事業を行っていることを確認した。</p>
改善を要する点及び対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<p><input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。</p>

評価項目 2-2 ①課外活動支援の実施状況

②学生支援センター課外活動支援部会による学生からの意見聴取の状況

判断基準：学生の部活動や自治会活動等の課外活動が円滑に行われるよう、必要な支援を行っているか

【担当組織】 学生支援センター	
自己点検・評価結果	<p>学生支援センター学生生活部会（令和5年9月5日～7日開催）において、課外活動団体に配分された予算の執行状について確認を行い、次年度支援内容の充実を図っている。</p>
改善を要する点及び対応策	なし

【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 2-3 ①外国人留学生への支援の状況

②外国人留学生アンケート

判断基準：留学生への生活支援等を行う体制を整備し、必要に応じて生活支援等を行っているか

【担当組織】 国際センター	
自己点検・評価結果	<p>国や民間の奨学金や学生寮を含む住居紹介、留学生チューターの配置等により留学生への適切な生活支援を実施している。</p> <p>留学生の生活状況等の実態を把握するため、令和5年度中に留学生アンケートを実施する。アンケートで得られた情報を基に、必要に応じて支援事業の見直しを図る。</p>
改善を要する点及び対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 2-4 ①アクセシビリティ・コミュニケーション支援センターによる支援の状況

判断基準：障害のある学生その他特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援等を行う体制を整備し、必要に応じて生活支援等を行っているか

【担当組織】 学生支援センター	
自己点検・評価結果	<p>アクセシビリティ・コミュニケーション支援センターに、専任教員（教授）1名、カウンセラー4名、受付職員（事務補佐員）2名が配置され、各課程・専攻の教員と共同し、障害のある学生等に対し、合理的配慮を始め、必要と考えられる支援を行う体制を整備し、支援を行っている。</p> <p>毎月（第4水曜日）定期開催しているアクセシビリティ・コミュ</p>

	<p>ニケーション支援センター会議（議長：同センター長＝学生支援センター長）において、支援学生の現況、同センター相談実績について、専任教員、担当カウンセラー、非常勤医師（精神科医）、関係職員（学務課、学生支援・社会連携課）で共有し、課題等について、意見交換や課題解決の検討等を行っている。</p>
<p>改善を要する点及び対応策</p>	<p>なし</p>
<p>前年度から継続中の課題及び対応状況</p>	<p>【課題①】 更なる向上が期待される点</p> <p>近年大幅に増加している相談希望者及び要支援対象者の増加に対応するため、相談－支援の棲み分け、または相談・支援体制の強化を検討する必要がある。</p> <p>【令和5年度対応状況】</p> <p>増加傾向にあるアクセシビリティ・コミュニケーション支援センターへの相談希望者に対応するため、体制の改善策として、同センターのカウンセラーによる相談時間を、令和4年度に週46時間から週53時間に、令和5年度には週57時間に拡大した。</p> <p>また、ピア・チューター制度を活用し、本学学生（ピア・チューター）による同センターの業務サポートを開始した。</p> <p>さらに、相談－支援の棲み分けの観点から、令和5年1月から、TwitterなどのSNSツール等を活用し、学生を対象に、学内外各相談窓口の紹介やセルフケアに関する情報等を発信している。ただ、年々相談件数は増加しており、現状の相談支援体制では負担が大きい状況が続いている。今後も引き続き、相談支援体制の強化を行う必要がある。</p> <p>【課題②】 更なる向上が期待される点</p> <p>現状の把握のため、受講登録時に学生アンケートを継続実施し、課題と対応について各課程・専攻と情報を共有するとともに、各課程・専攻で実施された改善策についても把握する必要がある。</p> <p>【令和5年度対応状況】</p> <p>現状の把握のため、後学期の受講登録時に学生アンケートを継続実施し、課題と対応について、学生支援センター及びアクセシビリティ・コミュニケーション支援センターにおいて検討し、学域長等会議にて各課程・専攻と情報を共有した。</p> <p>また、各課程・専攻で実施された改善策についても把握し、学生支援センター運営委員会（令和5年6月16日～23日開催）で共有</p>

	するとともに、課程・専攻にも参考として共有した。
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。
前年度から継続中の課題の対応状況に対する自己点検・評価結果	<p>【課題①への評価結果】</p> <input type="checkbox"/> 対応済 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> その他 <p>増加傾向にあるアクセシビリティ・コミュニケーション支援センターへの相談希望者に対応するため、体制の改善策として、同センターのカウンセラーによる相談時間を、令和4年度に週46時間から週53時間に、令和5年度には週57時間に拡大した。</p> <p>また、ピア・チューター制度を活用し、本学学生（ピア・チューター）による同センターの業務サポートを開始した。</p> <p>さらに、相談支援の棲み分けの観点から、令和5年1月から、TwitterなどのSNSツール等を活用し、学生を対象に、学内外各相談窓口の紹介やセルフケアに関する情報等を発信している。ただ、年々相談件数は増加しており、現状の相談支援体制では負担が大きい状況が続いている。今後も引き続き、相談支援体制の強化を行う必要がある。</p> <p>【課題②への評価結果】</p> <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> その他 <p>現状の把握のため、後学期の受講登録時に学生アンケートを継続実施し、課題と対応について、学生支援センター及びアクセシビリティ・コミュニケーション支援センターにおいて検討し、学域長等会議にて各課程・専攻と情報を共有した。</p> <p>また、各課程・専攻で実施された改善策についても把握し、学生支援センター運営委員会（令和5年6月16日～23日開催）で共有するとともに、課程・専攻にも参考として共有した。</p>

評価項目2-5 ①学生に対する経済支援の状況

判断基準：学生に対する経済面での援助を行っているか

【担当組織】 学生支援センター	
自己点検・評価結果	学生支援センター奨学支援部会（令和5年7月12日開催）において、前年度の入学料・授業料免除等に係る経済支援の実績について

	て確認し、必要な支援を行っている」と判断した。
改善を要する点及び 対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

3. 学生の受入

評価項目 3-1 ①アドミッションポリシー

判断基準：学生受入方針において、「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」の双方を明示しているか

【担当組織】 アドミッションセンター	
自己点検・評価結果	<p>アドミッションセンター入試実施室（学部入試実施部門・大学院入試実施部門）において、令和6年度の学部・大学院の各入学者選抜に係る学生募集要項等に、アドミッションポリシーに掲げる「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」が明示されていることを、入試実施室（学部入試実施部門・大学院入試実施部門）会議で確認を行った。</p> <p>なお、アドミッションポリシーについては、令和4年度から始まる第4期中期目標期間に向けたディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの見直しに合わせて、アドミッションポリシーの改訂を令和3年度末に行ったが、毎年度、必要に応じて改訂を行うこととしており、令和5年度に向けては、各課程・専攻等から連絡のあった変更点等を含めたアドミッションポリシーの改訂（案）をアドミッションセンター運営委員会（令和4年10月19日開催）で審議・承認し、教育研究評議会（令和5年2月9日開催）で、令和5年度向けのディプロマポリシー、カリキュラムポリシー及びアドミッションポリシーを最終決定後、その内容を学生募集要項に掲載した。</p>
改善を要する点及び対応策	<p>各入学者選抜のアドミッションポリシーについては、必要に応じて改訂を行うこととしており、令和6年度に向けてはアドミッションセンター運営委員会（令和5年6月21日開催）において、審議の結果、改訂の検討を開始した。</p>
前年度から継続中の課題及び対応状況	<p>【課題】 更なる向上が期待される点</p> <p>第4期中期目標期間に向けて、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの見直しが行われることに合わせて、アドミッションポリシーを見直す必要がある。</p> <p>【令和5年度対応状況】</p> <p>各課程・専攻等から連絡のあった変更点等を含めたアドミッションポリシーの改訂（案）をアドミッションセンター運営委員会（令和4年10月19日開催）で審議・承認し、教育研究評議会（令</p>

	和5年2月9日開催)で、令和5年度向けのディプロマポリシー、カリキュラムポリシー及びアドミッションポリシーを最終決定後、その内容を学生募集要項に掲載した。
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。
前年度から継続中の課題の対応状況に対する自己点検・評価結果	【課題への評価結果】 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> その他 各課程・専攻等から連絡のあった変更点等を含めたアドミッションポリシーの改訂(案)をアドミッションセンター運営委員会(令和4年10月19日開催)で審議・承認し、教育研究評議会(令和5年2月9日開催)で、令和5年度向けのディプロマポリシー、カリキュラムポリシー及びアドミッションポリシーを最終決定後、その内容を学生募集要項に掲載した。 今後も、アドミッションセンターにおいて、毎年度必要に応じて改正を行う。

評価項目3-2 ①入学試験の実施体制

②入学試験の実施に関する教職員からの意見聴取結果

判断基準：学生受入方針に沿って、受入方法を採用しており、実施体制により公正に実施しているか

【担当組織】 アドミッションセンター	
自己点検・評価結果	入試種別ごとに学長をリーダーとする入試実施本部を設置し、アドミッションポリシーに基づいた入学者選抜方法等により、公正に入学試験が実施されていることを確認している。 また、アドミッションセンター入試実施室(学部入試実施部門)会議(令和5年4月5日開催)において、昨年度中に実施した学部入試における試験監督者等から寄せられた意見について検討を行った。 検討結果については、今年度の入試実施体制に反映させるとともに、令和5年4月13日付で寄せられた意見に対するアドミッションセンターの回答を事務情報ポータルに掲載した。

改善を要する点及び 対応策	今年度実施する入試においても、実施上の問題点や不都合が生じた場合には、即時対応するとともに、次年度の実施にあたっての対応策をアドミッションセンター入試実施室において検証する予定である。
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 3-3 ①入学試験実施結果

②入学後の修学状況

判断基準：学生受入方針に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組を行っており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか

【担当組織】 アドミッションセンター	
自己点検・評価結果	<p>本学ポートフォリオシステムを活用して、入学後1年以内の休退学者の確認など厳格な学籍管理を行い、学生受入方針に沿った学生の受入が実際に出来ているかどうか検証を行った。更に、学部一般選抜においては、出題責任者に入試結果（受験者及び合格者それぞれの最高点、最低点、平均点等）の情報を提供し、試験問題の分析と次年度の出題担当者等への引継ぎ事項の作成を依頼し、入試問題についての改善に役立てている。</p> <p>アドミッションセンター運営委員会・入試実施室（学部入試実施部門）合同会議（令和5年5月10日開催）にて「学部1年次生の就学状況」について、各入試区分の過去7年間の入学後1年以内の退学者（学部生）等の状況や過去4年間の1年次終了時点での成績不振者の割合を検証し、学生受入方針に沿った学生の受入が行われているか確認を行った。</p> <p>また、令和4年度に実施した令和5年度学部一般選抜に係る受験者及び合格者それぞれの最高点、最低点、平均点等の情報を出題責任者に提供し、次年度への引継ぎ事項の作成を依頼した。引継ぎ事項が提出された試験科目については、アドミッションセンター入試実施室（学部入試一般選抜出題担当者会議）（令和5年5月17日開催）において情報を共有した。</p>
改善を要する点及び 対応策	次年度以降も同様に入学後1年以内の退学者の状況や成績不振者の割合等を検証するとともに、入試結果の情報共有、試験問題の

	分析と引継ぎ事項の作成依頼を行う予定である。
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 3-4 ①入学定員充足率

判断基準：実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか

【担当組織】 アドミッションセンター	
自己点検・評価結果	<p>アドミッションセンターで各種入試選抜区分の入学手続き期限毎に同種別毎の学生募集人員・入学手続き状況、及び学部・大学院全体の入学手続き状況を確認の上、定員の超過や欠員が生じないよう、追加合格対象者への連絡を行っている。また、教育研究評議会及び経営協議会において、実入学者数が入学定員に対して適正な数となっていることの報告を行っている。</p> <p>大学院博士後期課程はアドミッションセンター運営委員会・入試企画室(大学院入試企画部門)合同会議(令和3年6月23日開催)において、各専攻に令和4年度以降の入学定員確保のための方策の検討を依頼した。その後同会議(令和3年9月29日開催)で、各専攻から提出された取り組みを報告し、各専攻へは情報共有の上で、入学定員確保の取り組みを実施するよう依頼した。結果、令和4年度の博士後期課程入学者は秋入学者を含め64名となり、定員60名を充足することが出来た。</p> <p>令和5年度の大学院博士後期課程入試においても継続して同様の取り組みを行っていたが、令和5年2月末時点で令和5年4月入学の合格者が31名であったことから、アドミッションセンター運営委員会(令和5年3月8日開催)で6月の秋入学の出願期間に向け、再度、各学域・専攻へ引き続き入学定員確保の取り組みの依頼を行った。結果、秋入学者は昨年度の19名を上回る20名となったが、合計51名で入学定員の60名を充足することは出来なかった。令和6年度の入学定員確保に向け引き続き各専攻の取り組みを継続する予定である。</p> <p>なお、教育研究評議会(令和5年4月13日開催)及び経営協議会(令和5年6月13日開催)において、学部及び大学院博士前期</p>

	<p>課程は定員の超過や欠員が生じていない旨、報告を行った。</p> <p>また、大学院については、令和5年度秋入学者を含めた結果について、教育研究評議会（令和5年10月12日開催）で報告予定である。</p>
改善を要する点及び対応策	<p>大学院博士後期課程においては、引き続き令和4年度の取り組みを参考に入学定員確保に注力するよう各学域・専攻に依頼する予定である。なお、内部進学者の授業料免除等についても引き続きご配慮願いたい。</p>
前年度から継続中の課題及び対応状況	<p>【課題】 更なる向上が期待される点</p> <p>大学院博士後期課程においては定員を充足できていないため、適正化を図る必要がある。</p> <p>【令和5年度対応状況】</p> <p>上記「自己点検・評価結果」記載のとおり、各専攻に入学定員確保のための方策の検討を依頼し、各専攻から提出された取り組みをアドミッションセンター運営委員会にて報告した。また、各専攻へは、情報共有の上で入学定員確保の取組を実施するよう依頼した。その結果、秋入学は前年度の入学者を上回ったものの、年度全体の入学者は51名となり、入学定員の60名を充足することは出来なかった。今後も引き続き入学定員確保に注力するよう各学域・専攻に依頼する予定である。</p>
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<p><input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。</p>
前年度から継続中の課題の対応状況に対する自己点検・評価結果	<p>【課題への評価結果】</p> <p><input type="checkbox"/> 対応済 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> その他</p> <p>各専攻に入学定員確保のための方策の検討を依頼し、各専攻から提出された取り組みをアドミッションセンター運営委員会にて報告した。また、各専攻へは、情報共有の上で入学定員確保の取組を実施するよう依頼した。その結果、秋入学は前年度の入学者を上回ったものの、年度全体の入学者は51名となり、入学定員の60名を充足することは出来なかった。今後も引き続き入学定員確保に注力するよう各学域・専攻に依頼するなどの対応を行う。</p>

4. 教育課程と学習成果

評価項目 4-1 ①ディプロマポリシー

判断基準：学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定しているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	京都工芸繊維大学工芸科学部履修要項、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科履修要項から、学部、課程、研究科、専攻それぞれのディプロマポリシーを、大学の目的を踏まえ、具体的かつ明確に策定していることを確認した。 以上より、判断基準を満たしている。
改善を要する点及び対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-2 ①カリキュラムポリシー

判断基準：教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が分かりやすいように、

①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示しているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	京都工芸繊維大学工芸科学部履修要項、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科履修要項から、学部、課程、研究科、専攻のカリキュラムポリシー、教育プログラムにおける教育・学習方法に関する方針、学習成果の評価の方針を、学生や授業科目を担当する教員が分かりやすいように明確かつ具体的に明示していることを確認した。 以上より、判断基準を満たしている。
改善を要する点及び対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-3 ①カリキュラムポリシー

②ディプロマポリシー

判断基準：教育課程方針が学位授与方針と整合性を有しているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	京都工芸繊維大学工芸科学部履修要項、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科履修要項より、カリキュラムポリシーがディプロマポリシーと整合性を有していることを確認した。 以上より、判断基準を満たしている。
改善を要する点及び対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-4 ①カリキュラムツリー

②科目ナンバリング

判断基準：教育課程の編成が、体系性を有しているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	京都工芸繊維大学工芸科学部履修規則、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科履修規則から、授業科目の開講状況ならびに学部と大学院の科目がナンバリングされており、教育プログラムに体系性を有していることを確認した。 以上により、判断基準を満たしている。
改善を要する点及び対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-5 ①授業科目の内容

判断基準：授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	<p>京都工芸繊維大学通則第15条、京都工芸繊維大学大学院学則第17条から、1単位の授業科目が45時間の学修を要することが規定されていることを確認した。</p> <p>また、シラバスに授業内容等である「授業の目的・概要」「授業計画」の項目が設けられており、ほぼすべての科目が入力されていることを確認した。</p>
改善を要する点及び対応策	なし
前年度から継続中の課題及び対応状況	<p>【課題】 改善を要する点</p> <p>一部科目のシラバスに入力漏れの項目があったため、シラバスの点検により授業科目の内容が授与する学位に相応しい水準となっていることが部分的には確認できない。当該科目の担当教員に対して入力修正依頼を行うのに加えて、シラバスの入力漏れを事前に防ぐ仕組みや、万が一入力漏れが発生した場合には早期に入力させる仕組みを作る必要がある。</p> <p>【令和5年度対応状況】</p> <p>シラバスの年度更新について、令和4年度以前は記入されている内容は引き継がれていた。そのため、未記入の項目に気づかないままになることがあった。そこで、シラバス記載内容を毎年確認する仕組みとして、令和5年度のシラバスの年度更新より、すべての項目を未記入の状態から入力させることとした。また、令和5年6月に教員に対し、シラバスの自己点検を行う通知を行った。</p> <p>その結果、すべての項目が入力されていない科目はなくなり、項目単位でも一部を除き、ほとんどが入力されている状態である。ただ、一部項目についてはまだ入力漏れがあるため、未記入項目がある場合は警告の表示を出す等引き続き対策を行う。</p>
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<p><input type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。</p> <p>《判断基準を満たしていないとした理由》</p> <p>ほとんどの授業科目ではすべてが入力されているものの、一部科目のシラバスに入力漏れの項目があり、シラバスの点検により授業科目の内容が授与する学位に相応しい水準となっていることが部分的には確認できない。</p>

	<p>シラバスの入力は重要事項であり、認証評価基準において、シラバスに基づき授業科目の内容を確認することが求められていることから、引き続きシラバスの入力漏れを防ぐためのシステム改修など、シラバスの完全な入力に向けた改善を要する。</p>
前年度から継続中の課題の対応状況に対する自己点検・評価結果	<p>【課題への評価結果】</p> <p><input type="checkbox"/> 対応済 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> その他</p> <p>シラバスの一部科目の入力漏れについて、教員の見落としによる未記入項目を減らすための対策や、教員に対し入力後のシラバスの再確認を行うよう通知をするなどの対応を実施した。</p> <p>その結果、すべての項目が入力されていない授業科目はなくなり、項目単位でも一部を除き、ほとんどが入力されている状態である。ただ、一部項目についてはまだ入力漏れがあるため、未記入項目がある場合は警告の表示を出す等の対策をとる予定をしている。シラバスの入力重要事項であり、全科目・全項目の入力が求められていることから、次年度も引き続きの改善を要する。</p>

評価項目 4-6 ①京都工芸繊維大学通則

②京都工芸繊維大学大学院学則

判断基準：他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	<p>京都工芸繊維大学通則、京都工芸繊維大学大学院学則、3年次編入学生の入学以前の既修得単位の取り扱いについてから確認した。</p> <p>学生や編入生等が他の高等教育機関等で取得した単位に関して単位認定が行われており、判断基準を満たしている。</p>
改善を要する点及び対応策	なし
前年度から継続中の課題及び対応状況	<p>【課題】 更なる向上が期待される点</p> <p>令和2年6月30日付けで改正された大学院の単位認定上限緩和については、大学院学則に反映していないが、上限緩和を行うことが適切か否かを検討する必要がある。</p>

	<p>【令和5年度対応状況】</p> <p>令和2年6月30日付けで改正された大学院の単位認定上限緩和の大学院学則への反映の適否については、総合教育センター運営委員会において審議を行い、大学院学則へ反映することとした。</p> <p>その決定を踏まえ、研究科履修規則等関係する諸規則と合わせて令和5年3月23日付けで大学院学則改正を行った。</p>
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<p>■ 判断基準を満たしている。</p> <p>□ 判断基準を満たしていない。</p>
前年度から継続中の課題の対応状況に対する自己点検・評価結果	<p>【課題への評価結果】</p> <p>■対応済 □対応中 □検討中 □その他</p> <p>令和2年6月30日付けで改正された大学院の単位認定上限緩和の大学院学則への反映の適否については、総合教育センター運営委員会において審議を行い、大学院学則へ反映することとした。</p> <p>その決定を踏まえ、研究科履修規則等関係する諸規則と合わせて令和5年3月23日付けで大学院学則改正を行った。</p>

評価項目4-7 ①京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科履修規則

②京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科における研究指導計画書に関する申合せ

③大学院学生の指導体制

判断基準：大学院課程（専門職学位課程を除く）においては、学位論文（特定の課題についての研究の成果を含む）の作成等に係る指導（以下「研究指導」という）に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしているか

【担当組織】	総合教育センター
自己点検・評価結果	<p>京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科履修規則、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科における研究指導計画書に関する申合せから確認した。</p> <p>研究指導に関し、指導教員を明確に定め指導体制を整備し、研究指導計画を策定した上で指導することとしており、判断基準を満たしている。</p>

改善を要する点及び 対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-8 ①学年暦

判断基準：1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	学年暦カレンダーから確認した。 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっている。 以上より、判断基準を満たしている。
改善を要する点及び 対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-9 ①学年暦

判断基準：各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっていること。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	シラバス、学年暦カレンダー等から確認した。 15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、15週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげている。 以上より、判断基準を満たしている。
改善を要する点及び	なし

対応策	
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-10 ①授業形態、学習指導法、授業の方法及び内容の学生への周知状況

判断基準：適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	<p>シラバスの「授業の目的・概要」「授業計画」「学習目標」「留意事項」「成績評価の方法及び基準」「履修条件」の項目により確認した。</p> <p>カリキュラムの設計に基づいて、適切な授業形態、学習指導法を採用し、シラバスが作成されている。</p> <p>また、シラバスは、ウェブにて学生に対し周知している。</p> <p>上記項目について、ほぼすべての科目が入力されていることを確認した。</p>
改善を要する点及び対応策	なし
前年度から継続中の課題及び対応状況	<p>【課題】 改善を要する点</p> <p>一部科目のシラバスに入力漏れの項目があったため、適切な授業の方法及び内容が学生に対して明示されていない。当該科目の担当教員に対して入力修正依頼を行うのに加えて、シラバスの入力漏れを事前に防ぐ仕組みや、万が一入力漏れが発生した場合には早期に入力させる仕組みを作る必要がある。</p> <p>【令和5年度対応状況】</p> <p>シラバスの年度更新について、令和4年度以前は記入されている内容は引き継がれていた。そのため、未記入の項目に気づかないままになることがあった。そこで、シラバス記載内容を毎年確認する仕組みとして、令和5年度のシラバスの年度更新より、すべての項目を未記入の状態から入力させることとした。また、令和5年6月に教員に対し、シラバスの自己点検を行う通知を行った。</p> <p>その結果、すべての項目が入力されていない科目はなくなり、項</p>

	目単位でも一部を除き、ほとんどが入力されている状態である。ただ、一部項目についてはまだ入力漏れがあるため、未記入項目がある場合は警告の表示を出す等引き続き対策を行う。
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。 《判断基準を満たしていないとした理由》 ほとんどの授業科目ではすべてが入力されているものの、一部科目のシラバスに入力漏れの項目があり、適切な授業の方法及び内容が学生に対して部分的に明示されていない。 シラバスの入力は重要事項であり、認証評価基準において、全科目・全項目の入力が求められていることから、引き続きシラバスの入力漏れを防ぐためのシステム改修など、シラバスの完全な入力に向けた改善を要する。
前年度から継続中の課題の対応状況に対する自己点検・評価結果	【課題への評価結果】 <input type="checkbox"/> 対応済 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> その他 シラバスの一部科目の入力漏れについて、教員の見落としによる未記入項目を減らすための対策や、教員に対し入力後のシラバスの再確認を行うよう通知をするなどの対応を実施した。 その結果、すべての項目が入力されていない授業科目はなくなり、項目単位でも一部を除き、ほとんどが入力されている状態である。ただ、一部項目についてはまだ入力漏れがあるため、未記入項目がある場合は警告の表示を出す等の対策をとる予定をしている。シラバスの入力重要事項であり、全科目・全項目の入力が求められていることから、次年度も引き続きの改善を要する。

評価項目 4-11 ①教育上主要と認める授業科目の担当教員の状況

判断基準：教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当しているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	「教育上主要と認める授業科目」における専任の教授・准教授の担当状況により確認した。 教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授

	が担当している。 以上より、判断基準を満たしている。
改善を要する点及び 対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-12 ①京都工芸繊維大学大学院学則

判断基準：大学院において教育方法の特例（大学院設置基準第14条）の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	<p>京都工芸繊維大学大学院学則により確認した。</p> <p>大学院学則第20条の2において、「教育上特別の必要があると認める場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことがある」旨定めており、法令に則した実施方法となっている。</p> <p>以上より、判断基準を満たしている。</p>
改善を要する点及び 対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-13 ①履修相談への対応状況

判断基準：学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	<p>学務課で対応した履修相談の実施状況を確認した。</p> <p>また、学務課における履修相談のほか、学生のニーズに応え得る</p>

	履修指導の体制として、スタディアドバイザー制度、数学サポートセンター、物理サポート室を設置し、指導、助言、支援が行われている。 以上より、判断基準を満たしている。
改善を要する点及び対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-14 ①数学サポートセンター、物理サポート室の活動状況

判断基準：学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	学務課で対応した履修相談、数学サポートセンター及び物理サポート室の延べ利用者数と TA/SA 等任用数から確認した。 学生のニーズに応え得る学習相談の体制として、スタディアドバイザー制度、数学サポートセンター、物理サポート室を設置し、指導、助言、支援が行われている。 以上より、判断基準を満たしている。
改善を要する点及び対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-15 ①キャリア教育及びインターンシップ科目の実施状況

判断基準：社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施しているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	キャリア教育及びインターンシップ科目の実施状況から確認した。 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取り組みを

	実施している。 以上より、判断基準を満たしている。
改善を要する点及び 対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-16 ①アクセシビリティ・コミュニケーション支援センターによる支援の状況

②外国人留学生への学習支援の状況

判断基準：障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援を行う体制を整えているか

【担当組織】 学生支援センター及び国際センター	
自己点検・評価結果	<p>アクセシビリティ・コミュニケーション支援センターに、専任教員（教授）1名、カウンセラー4名、受付職員（事務補佐員）2名が配置され、各課程・専攻の教員と共同し、障害のある学生等に対し、合理的配慮を始め、必要と考えられる支援を行う体制を整備し、支援を行っている。</p> <p>毎月（第4水曜日）定期開催しているアクセシビリティ・コミュニケーション支援センター会議（議長：同センター長＝学生支援センター長）において、支援学生の現況、同センター相談実績について、専任教員、担当カウンセラー、非常勤医師（精神科医）、関係職員（学務課、学生支援・社会連携課）で共有し、課題等について、意見交換や課題解決の検討等を行っている。</p> <p>上記のほか、学習支援体制の一つとして、ピア・チューター制度を運用し、「学生による学生の支援」も行っている。</p> <p>また、留学生については、可能な限り同じ課程・専攻に在籍する留学生チューターを配置することにより留学生への適切な学習支援を実施している。</p>
改善を要する点及び 対応策	なし

前年度から継続中の課題及び対応状況	<p>【課題】 更なる向上が期待される点</p> <p>現状の把握のため、受講登録時に学生アンケートを継続実施し、課題と対応について各課程・専攻と情報を共有するとともに、各課程・専攻で実施された改善策についても把握する必要がある。</p> <p>【令和5年度対応状況】</p> <p>現状の把握のため、後学期の受講登録時に学生アンケートを継続実施し、課題と対応について、学生支援センター及びアクセシビリティ・コミュニケーション支援センターにおいて検討し、学域長等会議にて各課程・専攻と情報を共有した。</p> <p>また、各課程・専攻で実施された改善策についても把握し、学生支援センター運営委員会（令和5年6月16日～23日開催）で共有するとともに、課程・専攻にも参考として共有した。</p>
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<p><input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。</p>
前年度から継続中の課題の対応状況に対する自己点検・評価結果	<p>【課題への評価結果】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> その他</p> <p>現状の把握のため、後学期の受講登録時に学生アンケートを継続実施し、課題と対応について、学生支援センター及びアクセシビリティ・コミュニケーション支援センターにおいて検討し、学域長等会議にて各課程・専攻と情報を共有した。</p> <p>また、各課程・専攻で実施された改善策についても把握し、学生支援センター運営委員会（令和5年6月16日～23日開催）で共有するとともに、課程・専攻にも参考として共有した。</p>

評価項目4-17 ①京都工芸繊維大学工芸科学部履修規則

②京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科履修規則

判断基準：成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定しているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	<p>京都工芸繊維大学工芸科学部履修規則、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科履修規則により確認した。</p> <p>成績評価基準を、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシー</p>

	一に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定している。 以上より、判断基準を満たしている。
改善を要する点及び対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-18 ①履修要項

判断基準：成績評価基準を学生に周知しているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	シラバスにより確認した。 シラバスでは、それぞれの科目ごとに、成績の評価方法・評価基準が示されている。また、シラバスはウェブサイトにて学生に周知している。 以上より、判断基準を満たしている。
改善を要する点及び対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-19 ①成績評価分布の確認状況

判断基準：成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認しているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	各課程・専攻ごとの成績評価の分布で成績評価に偏りが無いことを確認した。この分布は毎年度総合教育センター教育評価・FD室にて組織的に確認している。 以上より、判断基準を満たしている。

改善を要する点及び 対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-20 ①京都工芸繊維大学の成績評価に対する異議申立て要項

②異議申立てへの対応状況

判断基準：成績に対する異議申立て制度を組織的に設けているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	<p>京都工芸繊維大学の成績評価に対する異議申立て要項、成績評価に対する異議申立ての件数・内容から確認した。</p> <p>成績に対する異議申立て制度を組織的に設けており、成績に対する異議がある場合、制度に基づいて異議申立てが行われている。</p> <p>以上より、判断基準を満たしている。</p>
改善を要する点及び 対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-21 ①京都工芸繊維大学工芸科学部履修規則

②京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科履修規則

判断基準：大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定しているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	<p>京都工芸繊維大学工芸科学部履修規則、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科履修規則に卒業又は修了の要件を規定していることを確認した。</p> <p>この要件は、大学等の目的及びディプロマポリシーに則して、組織的に策定している。また、履修規則は履修要項に掲載し、学生に</p>

	周知している。 以上より、判断基準を満たしている。
改善を要する点及び 対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-22 ①学位論文に係る評価にあたっての基準

判断基準：大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準（以下「学位論文評価基準」という。）を組織として策定しているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科履修規則により確認した。大学院教育課程において、学位論文評価基準を組織として策定している。 以上より、判断基準を満たしている。
改善を要する点及び 対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-23 ①履修要項

判断基準：策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知しているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	京都工芸繊維大学工芸科学部履修規則、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科履修規則、京都工芸繊維大学工芸科学部履修要項、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科履修要項、大学公式サイトから、大学等の目的及びディプロマポリシーに則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策

	定しており、また、策定した卒業（修了）要件を履修要項により学生に周知していることを確認した。 以上より、判断基準を満たしている。
改善を要する点及び対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-24 ①卒業（修了）認定の審議状況

②学位審査報告の審議状況

判断基準：卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施しているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	京都工芸繊維大学学位規則、学域長等会議議事録から確認した。 卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施しており、判断基準を満たしている。
改善を要する点及び対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-25 ①標準修業年限内卒業（修了）率

②標準修業年限×1.5年内卒業（修了）率

③資格取得状況

判断基準：標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則した状況にあるか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年

	<p>内卒業（修了）率、各種資格取得者数を確認した。</p> <p>標準修業年限×1.5年内卒業（修了）について、学部、博士前期課程は90%以上、博士後期課程が約70%であり、大学等の目的及びディプロマポリシーに則した状況であることを確認した。</p> <p>また、学生が各課程、専攻に関連した資格を取得していることを確認した。</p> <p>以上より、判断基準を満たしている。</p>
改善を要する点及び対応策	なし
前年度から継続中の課題及び対応状況	<p>【課題】 更なる向上が期待される点</p> <p>博士後期課程における標準修業年限×1.5年内修了率が70%未満となっている年度があり、適正化を図る必要がある。</p> <p>【令和5年度対応状況】</p> <p>博士後期課程における標準修業年限×1.5年内修了率が70%未満となっている年度があり、総合教育センター運営委員会の博士教育WGにて検討したところ、70%未満となる傾向にあるのは一部の専攻であったことから、該当学域でその分野の特性に応じた対応を検討することとした。</p> <p>その後、総合教育センター運営委員会（令和5年3月22日開催）にて該当学域から現状報告と改善方策が示され、継続して対応にあたることを確認した。</p>
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<p><input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。</p>
前年度から継続中の課題の対応状況に対する自己点検・評価結果	<p>【課題への評価結果】</p> <p><input type="checkbox"/> 対応済 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> その他</p> <p>博士後期課程における標準修業年限×1.5年内修了率が70%未満となっている年度があり、総合教育センター運営委員会の博士教育WGにて検討したところ、70%未満となる傾向にあるのは一部の専攻であったことから、該当学域でその分野の特性に応じた対応を検討することとした。その後、総合教育センター運営委員会（令和5年3月22日開催）にて該当学域から現状報告と改善方策が示された。今後も引き続き対応を行う。</p>

評価項目 4-26 ①卒業・修了生の進路状況

判断基準：就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学の様子が、大学等の目的及び学位授与方針に則した状況にあるか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	卒業・修了者進路状況により確認した。 就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学の様子が、大学等の目的及びディプロマポリシーに則した状況にあり、判断基準を満たしている。
改善を要する点及び対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-27 ①卒業生・修了生（予定者）アンケート結果

判断基準：卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	卒業・修了（予定者）アンケート集計結果から確認した。 卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及びディプロマポリシーに則した学習成果が得られていることが分かることから、判断基準を満たしている。
改善を要する点及び対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-28 ①卒業生・修了生調査協力者会議の意見聴取結果

判断基準：卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	大学等の目的及びディプロマポリシーに則した学習成果が得られていることを、卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取（卒業生・修了生調査協力者会議）の結果により確認しており、判断基準を満たしている。
改善を要する点及び対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。

評価項目 4-29 ①就職先企業へのアンケート結果

判断基準：就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られているか

【担当組織】 総合教育センター	
自己点検・評価結果	<p>オンライン・合同企業説明会参加企業アンケート集計結果から確認した。</p> <p>大学等の目的及びディプロマポリシーに則した学習成果が得られていることを就職先等からの意見聴取の結果により確認しており、判断基準を満たしている。</p>
改善を要する点及び対応策	なし
【大学評価室】	
自己点検・評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 判断基準を満たしている。 <input type="checkbox"/> 判断基準を満たしていない。